



みなさん、こんにちは。4月号のこの原稿を書いている現在、3月定例会中です。議会で決定したご報告とはなりません、質疑・質問を中心にその内容をお届けします。

## 東日本大震災から10年 災害もコロナもミャンマーの平和も 政治の力の発揮が求められる

東日本大震災から10年が経ちました。被災者の方々の暮らしや健康・生業はまだまだ安心できる状態などではなく、東京電力福島第一原発の増え続ける汚染水の海洋放出問題は深刻です。廃炉は計画通りに進まず、収束のめどさえ立たない状況です。日本共産党は3月11日「東日本大震災から10年を迎えるにあたって」提言を発表しました。

他にも3月12日「緊急要請 コロナ封じ込めのための大規模検査を」や、3月16日「ミャンマー国軍は武力弾圧をただちに中止せよー国際社会の一致した取り組みを呼びかける」の声明を発表しています。どれも、政治が力を発揮しないでどうするのか、という問題です。読んでいただければありがたいです。



東日本大震災



コロナ



ミャンマー

## リニア駅 亀山に決まったらしいけど、本当に要るのだろうか？

日本共産党議員団はずっと『リニアはいらない』と声をあげてきました。自然破壊、安全性、水への影響、残土、自然災害リスクの増大、財政のひっ迫、需要の低下、都市計画の矛盾…。懸念材料はきりがありません。2021年度～2022年度にかけて駅はどこが良いのか、など調査・研究する費用が1700万円以上も予算化されています。コロナ禍の中で東京への出張や会議等は激減しているはずですが、コロナを体験したうえで本当に必要ですか？と聞きたいです。

静岡県内の大学生たちが自然環境への影響などを理由に工事中止を求めて団体を作り、署名を集め川勝知事に届けました。知事は工事による大井川の水の枯渇を懸念し声をあげ続けており、学生たちの訴えに対しては「科学技術と自然環境をいかに両立させるか、考えることが大事。」と答えたそうです。亀山市もコンサルタント丸投げではなく、いろんな世代の市民が様々な視点から、活発に議論をするべきです。



## 医療センターに常設の「発熱外来診察室」がつけられる

医療センターに新たに発熱外来を設置する予算。3つの診察室に待合室が付いた常設のもので、場所は現在の仮設の発熱検査外来の南側です。

昨年11月設置の発熱検査外来は、この3カ月ほどの間に169件の利用がありました。医療センターからの受診が89件、市内の開業医からの紹介が58件、鈴鹿保健所からの紹介が22件です。多くの市民に利用され、保健所の紹介も受け、公立の医療センターがあって本当に良かったと思います。広くなり、常設となれば他の感染症などにも対応できます。

## 発熱したら まずは電話で問い合わせを

発熱した方の受診は、医療センターの場合、診察受付時間9～12時の間に必ず電話を入れます。(かかりつけ医がほかにある方はそちらでご相談を)そこで①電話診察か、②すぐに来院か、③午後発熱外来受診か、が決定されます。いずれの方法も後の手順について電話でご案内します。

## 驚いた!35人以下学級を 全学年一気に進める

少人数学級の実現は教育界の悲願です。コロナ禍を経て、文科省は40年ぶりに小学校のみですが基準を見直しました。基本は40人学級で小1のみ35人であったものを、全学年35人学級にするのです。毎年1学年ずつ順次実施していきます。亀山市はなんと中学校も含め一気に35人学級とします。(小学校1年生は県の基準により30人)小・中合わせて10クラスほどが過密クラスとなる予定でしたが、これで解決します。さらに、習熟度別など少人数教育も継続します。

## 児童発達支援センター 認定子ども園への併設に こだわらず設置する

児童発達支援センターの設置は急務ですので毎年のように質問しています。今年も設置の考えを問いました。「児童発達支援センターを設置する、認定子ども園への併設にはこだわらない。」との答弁でした。昨年は、「今やっていることの延長程度」という答弁であったので、今回はぜひぶん前向きな答弁ではありました。さらに取り組みが進むよう注視していきます。

## 学びの場は学校だけではない どの子どもにも学びの保障をする 予算が組まれる

不登校の子達への学習保障の予算にも注目しました。ふれあい教室の指導員を一人増員し(教員OB)ふれあい教室に来ていない児童生徒に訪問型学習支援や相談対応等をする予算です。また教員OBで構成されるNPOに委託をし、訪問型の支援をさらに細やかにしていくようです。タブレットも活用し、出席や評価も可能になります。どこにいても学べる保障をするのは大事なことです。

## 3歳以上の障がい児にも 保育士の加配を

保育所では障がいがある子に対し保育士を加配し発達を支援します。県内で保育士のかわりに介助員等を配置している市は亀山を含め4市。中でも保育士の割合が極端に低いのは亀山市です。(2020年3月調査)なぜなら亀山市は3歳以上児への加配について、基本的に保育士ではなく介助員と決めているからです。保育士に戻せと毎年質問していますが今回も戻すとは言いませんでした。科学的根拠のない基本方針を変えない限り抜本的な改善とはなりません。

## みゆきの四季雑感

春本番の4月号です。コロナや花粉症に関係なく桜は咲き、木々の新芽が吹きだします。そうしているうちに田に水が張られ空と早苗がきれいに映る大好きな季節となります。

かけある記5月号から、最終日曜日の折り込み日について1週早めようと思います。どうぞよろしくお願い致します。



議会質問動画



市役所駐車場の早咲き桜